1 三鷹のまちを 知る

三鷹のまちは、「地形」「緑」「歴史」「都市空間」「コミュニティ」の５つの視点で捉えることができます。

地形と水の流れは、三鷹のまちの土台です。

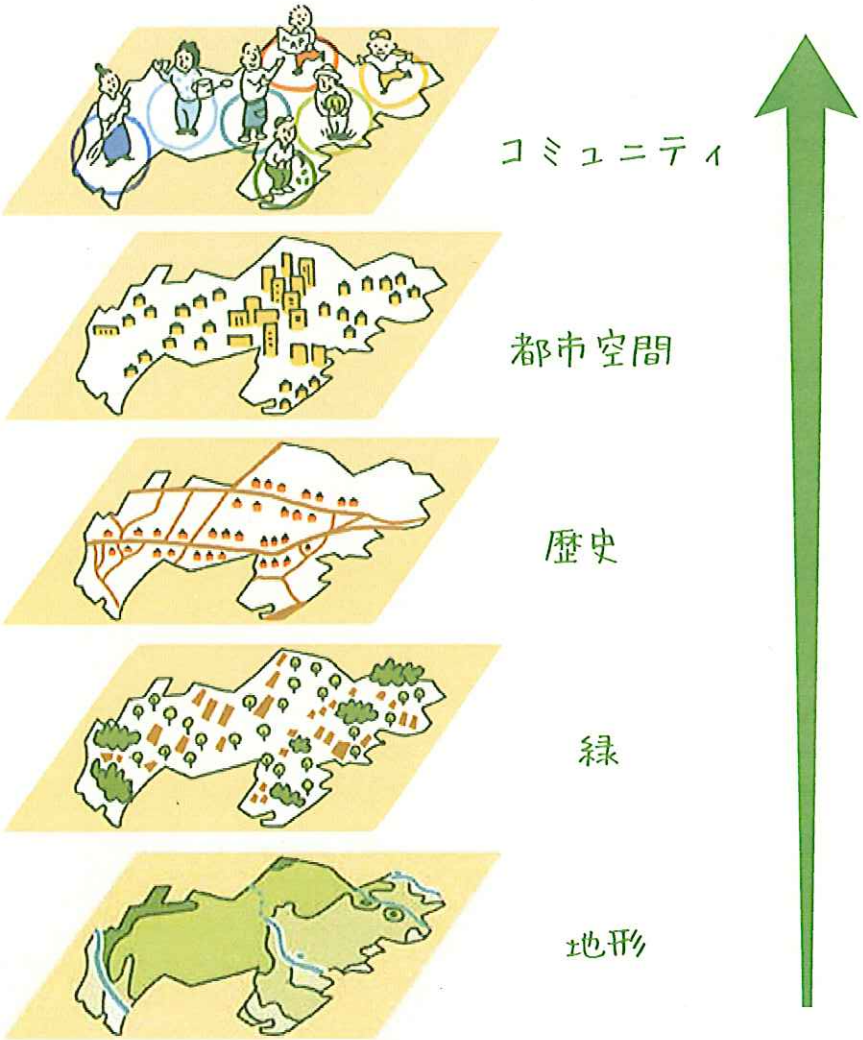
その土台の上に、人々の暮らしと共生している緑が広がっています。

街道などを中心に、まちの成り立ちを伝える歴史が刻まれています。

道路や建物などの都市空間に着目することで、まちで行われている活動が浮かび上がってきます。

身近なコミュニティに着目すると、市全域では語り尽くせない特徴や魅力が見えてきます。

この５つの視点を重ね合わせることで、三鷹のまちの特徴や魅力を読み解いていきましょう。



地形　三鷹のまちの土台となる 地形と水の流れ

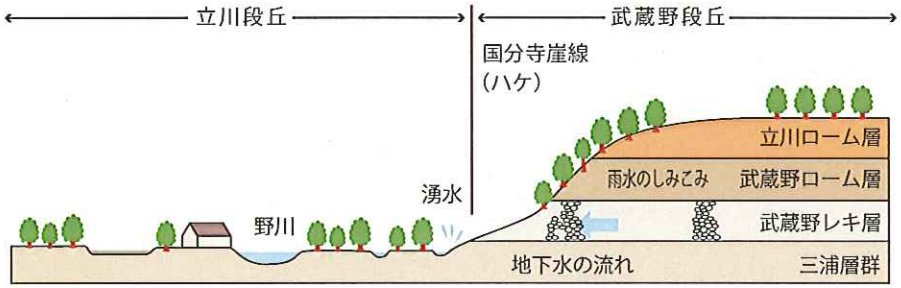
国分寺崖線と河川に刻まれた地形の変化

三鷹の大地は、武蔵野台地の中央部南端に位置しています。市の西端には旧多摩川が浸食してできた「国分寺崖線」と呼ばれる高さ 10 ～ 20m の急斜面があり、高い面である「武蔵野段丘」と、低い面である「立川段丘」の２つの段丘を隔てています。

市域のほとんどは武蔵野段丘にあり、緩やかな傾斜の中に、仙川などの河川によって浅い谷が刻まれ、地形的な変化がもたらされています。

牟礼の里、牟礼にある法政大学中学校・高等学校付近には、武蔵野段丘よりさらに一段高い「下末吉（しもすえよし）段丘」が、島状に残されており、牟礼の里近くには、市の最高標高地点があります。

豊かな斜面緑地が残る国分寺崖線、牟礼の里や尾根筋などには、富士見スポットや眺望が開けるスポットが知られています。



武蔵野段丘・立川段丘と国分寺崖線

南東に流れる３本の河川

三鷹には、東京湾のある南東に向かってほぼ平行して流れる３本の一級河川があります。井の頭池を源として江戸の飲料水の水源であった「神田川」、丸池が源泉ともいわれる「仙川」、国分寺市恋ヶ窪付近の湧水群を水源とする「野川」です。

現在は暗渠化され遊歩道などになっている「中仙川」や「中川」、「烏山川」もあり、川筋からは、古くは旧石器時代の遺跡が見つかっています。

江戸時代に入ると、農業用水として「玉川上水」や「品川用水」、「砂川用水」、「牟礼用水」などが整備され、自然の河川とともに田畑に水を巡らせていました。

水の流れは、今も昔も三鷹を潤し、緑を育んでいます。

神田川

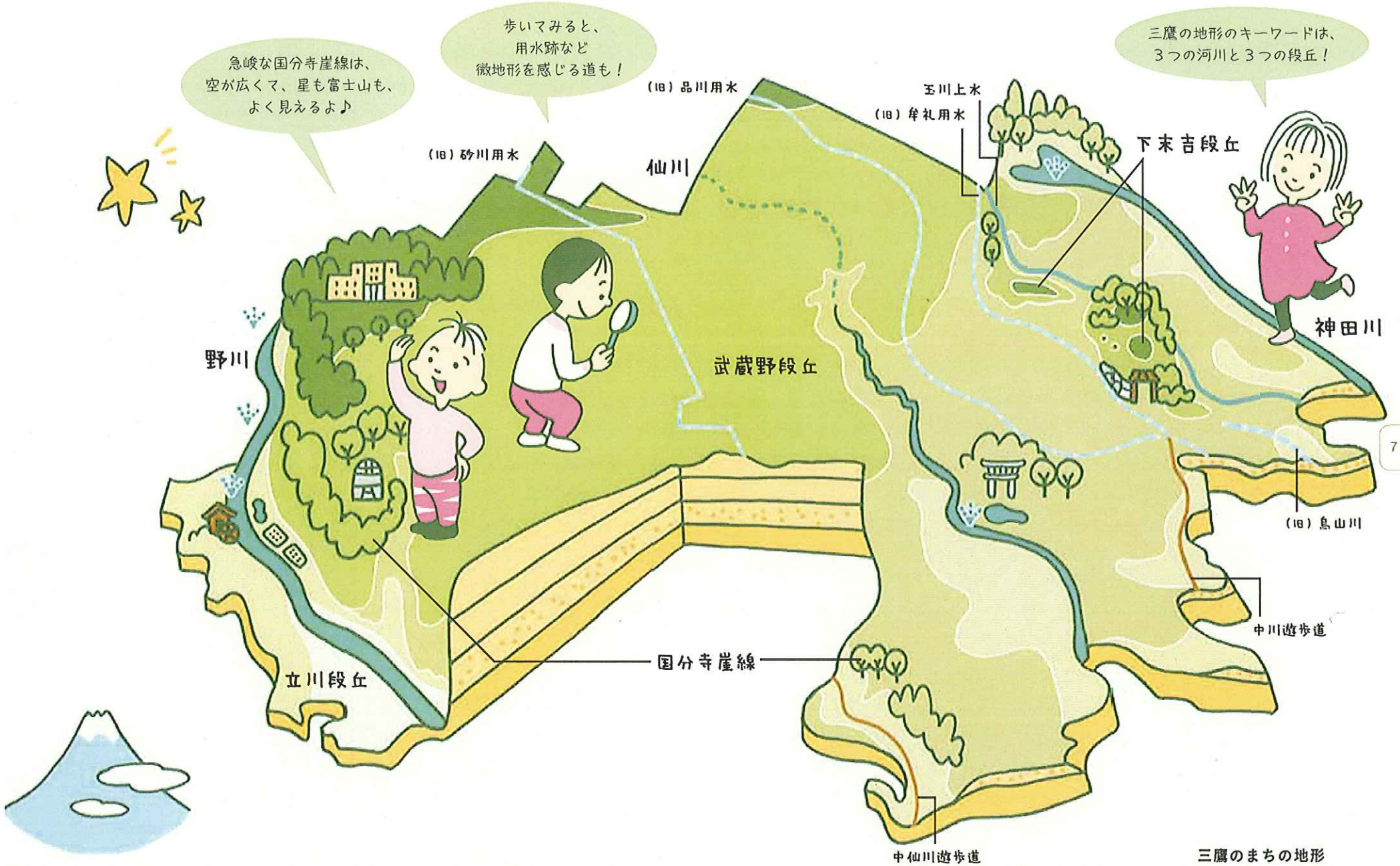
仙川

野川

玉川上水

中仙川遊歩道

中川遊歩道


急峻な国分寺崖線は、
空が広くて、星も富士山も、
よく見えるよ♪
歩いてみると、
用水跡など
微地形を感じる道も！
三鷹の地形のキーワードは、
３つの河川と３つの段丘！
（旧）品川用水
（旧）砂川用水
仙川
玉川上水
（旧）牟礼用水
下末吉段丘
神田川
野川
武蔵野段丘
（旧）鳥山川
中川遊歩道
国分寺崖線
立川段丘
中仙川遊歩道

三鷹のまちの地形

緑 人との関わりによって育まれる 三鷹の緑

骨格となる緑 と 身近な小さな緑

国分寺崖線や河川などの地形や水の流れに沿って、骨格となる緑が、公園や緑地、遊歩道などとして残っています。

また、骨格となる緑だけでなく、庭の緑や農の緑など、民有地の緑が豊かなことも三鷹の特徴です。この身近な小さな緑は、骨格となる緑の間を補い、まちなかに潤いのある風景や憩いの場をもたらしているとともに、多様な生物が生息する環境を支えています。

農が生み出した緑

身近な小さな緑の中でも、農の緑は、武蔵野の面影を残し、まちの歴史や文化を知る手がかりとなる緑です。

農の緑に含まれる屋敷林や雑木林などは、現代の暮らしの中では役割が失われ、農地とのつながりが見いだしづらくなっていますが、かつては母屋・屋敷林・農地・雑木林が一帯となって、農家の営みを支えていました。

また、農業が盛んな地域には農業神を祀った神社が多く、その背後にそびえる『鎮守の杜』と呼ばれる森も、畏敬の対象として、大切にされてきました。

国分寺崖線

牟礼の里

井の頭公園

※ 緑の管理で大切なのは、人が手を加え続けること

三鷹のまちに点在している雑木林は、かつて農家が薪・炭・堆肥を得るために植樹した林です。大きく伸びる前に切った枝は薪や炭にし、落ち葉は堆肥に使っていました。そのため、雑木林には適度に日差しがもたらされ、下草が茂り、多様な動植物を育んでいました。

昔ながらの農業が行われなくなり、かつてのように使用されなくなった現代においても、市内では、雑木林の本来の価値や魅力を味わおうと、楽しみながら里山づくりが行われています。

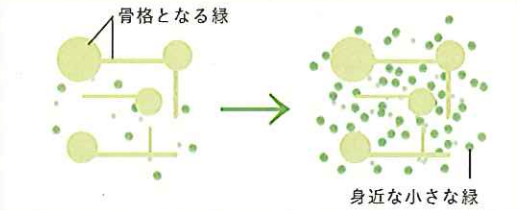
雑木林に限らず三鷹の緑は、人の暮らしに寄り添い、育まれてきたものばかりです。時代にあった緑との付き合い方を考えながら、緑を維持していくことが大切です。

☼ 生物の多様性を支える身近な小さな緑

多様な生物が生息するためには、樹林地・草地・水域など、異なったタイプの植物群落がモザイク状に混在していることが大切だと言われています。

まちには、住宅の庭や生け垣、緑のカーテン、壁面・屋上緑化、集合住宅や企業の緑地、商店街のプランター、農地や屋敷林など、小さな緑の空間がたくさんあります。

この身近な小さな緑の密度と多様性を向上させることが、まちの中で多様な生物が生息する上で必要です。



身近な小さな緑の密度と多様性の向上

玄関先の緑化
玄関先の小空間も、まちなかでは大切な緑です。

バタフライガーデン
（野崎吉野東児童遊園）
生き物に配慮した環境づくりは、広さがなくても行えます。

三鷹市の緑の分布

歴史 街道からはじまったまちの成り立ちの歴史

三鷹のまちの発展は、人見街道、連雀通りからはじまりました。

人見街道は、江戸と甲斐国（山梨県）をつなぐために江戸幕府が整備した甲州街道の裏道であり、江戸へ向かう主要な道の一つでした。甲州街道 高井戸から、府中市北東部にあたる人見村に通じ、再び甲州街道へ合流していました。

連雀通りは、小金井街道などとも呼ばれ、井口から上連雀、下連雀、牟礼へと続く江戸の往還で、三鷹の江戸時代の代表的な道でした。また、江戸時代に通りを中心とした連雀村の開村が行われました。

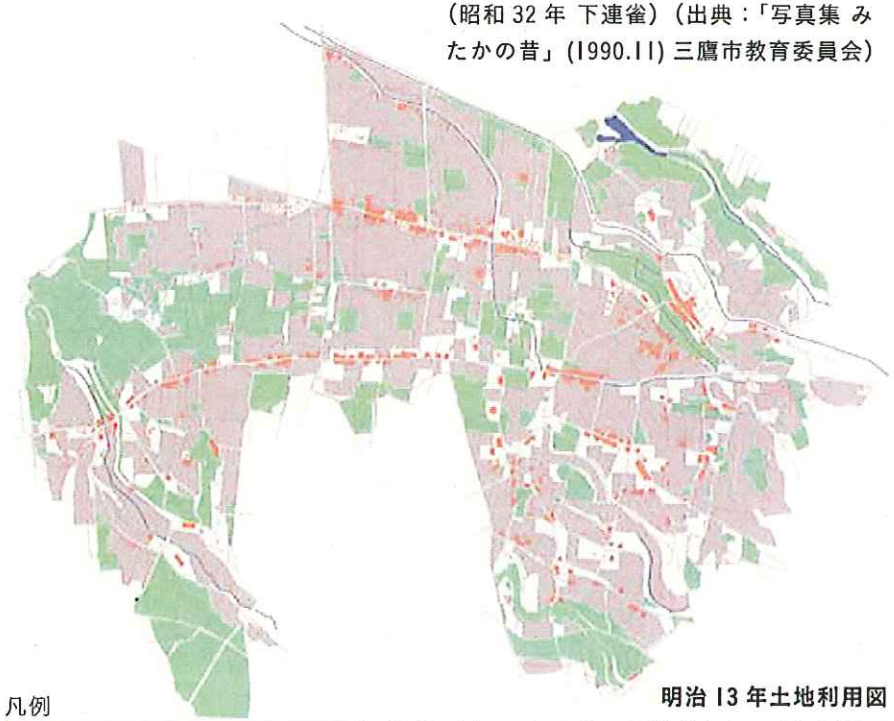
今も人見街道や連雀通りの沿道では、社寺や屋敷林、土蔵、南北に長い短冊状の地割りなどに、昔の面影を見ることができます。

そのほかにも、井の頭弁財天参道、深大寺の古道、深大寺街道、大沢野川沿いの道など、江戸時代の道が残されています。

江戸時代の道

人見街道のケヤキ並木

空から見た駅周辺・右斜めの道路はさくら通り（昭和 32 年 下連雀）（出典：「写真集 みたかの昔」(1990.11) 三鷹市教育委員会）



明治 13 年土地利用図

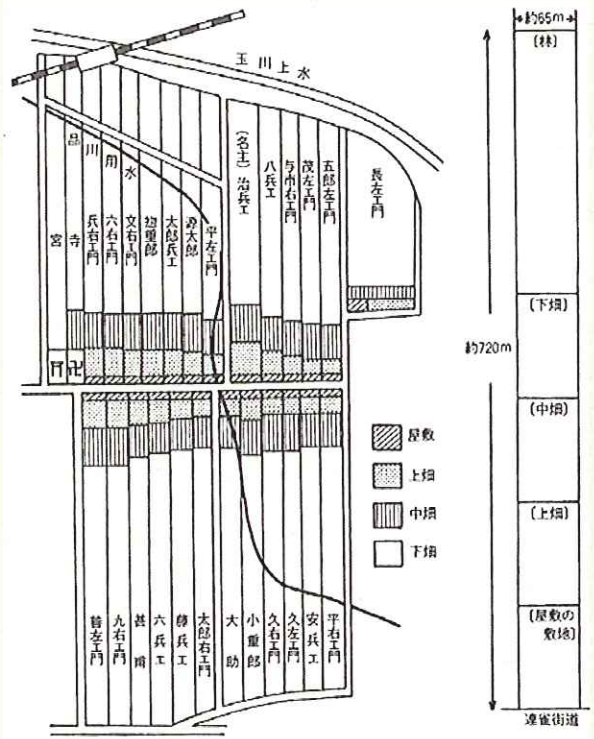
街道に沿ってまち並みが形成され、それ以外は農耕地・緑地が広がっていたことが分かります。（出典：「三鷹の街と建物の歴史調査報告書」(2009.3) 三鷹市教育委員会）

※ 連雀新田の開墾

連雀村の開村は、350 年前にさかのぼります。明歴 3 年（1657 年）1 月に起きた江戸の明暦大火（別名：振り袖火事）により、幕府の命令で江戸神田連雀町の被災者の替え地として、万治元年(1658 年)に“連雀新田”として開墾されたのがはじまりです。

連雀通りを中心に、短冊状に地割りされました。これは、連雀通りに沿って平等に敷地が与えられたためで、エリアをぬって流れる品川用水の水を利用して畑作が行われていました。

現在の南北に長い街区は、このときの名残です。また、街道沿いに建てられた家のまわりの防風林は、今もケヤキ並木として街道沿いに残っています。



連雀新田地割想定図（出典：「てくてく・みたか」(1987.3) 三鷹市教育委員会）

都市空間 人の営みを支える 都市空間

ふれあい・憩いの場としての みち空間

まちを斜めに流れる河川の軸に対して、東西南北に通る道路は、三鷹の都市の軸です。道路は、人が交流したり、物や情報などが行き交うのに不可欠であるとともに、防災空間や生活環境を維持するオープンスペースとしても大切な役割を担っています。

生活道路では、人を中心としたみちづくりも進んでいます。例えば、バリアフリーの取り組みとして、「ベンチのあるみちづくり」が市民と市の協働で行われ、地域の休息・交流の場が生まれています。東八道路やかえで通りでは、自転車道や自転車レーンの整備によって、歩行者・自転車双方の安全性が高まりました。

ベンチが設置された
マンション入口のバス待ち空間

かえで通りの自転車道

断面図からみる 都市のにぎわい

三鷹のまちは、２階建以下の低層の住宅地が広がる中に、三鷹駅前の中心市街地や商業集積が進む幹線道路沿い、工場群、住宅団地のほか、病院・大学・文化施設などが中高層で浮かびあがる分かりやすい断面図をしています。

その理由の１つに、住居、商業、工業などの地域の特色に合わせて、建物の高さをコントロールしていることがあげられます。市の大部分を占める住宅地は居住環境を保つために低層に抑える一方で、三鷹の顔である三鷹駅前は、多くの人や活動を受け入れられるよう、エリアを区切って高さの制限を設けないことで中高層のまち並みが生み出されています。訪れる人々の目的や活動に応じてまち並みにもメリハリがつき、全体として快適な都市環境をつくり出しています。

市の大部分を占める閑静な住宅地

にぎわいのある三鷹駅前の中心市街地

三鷹のまちの断面のイメージ

コミュニティ

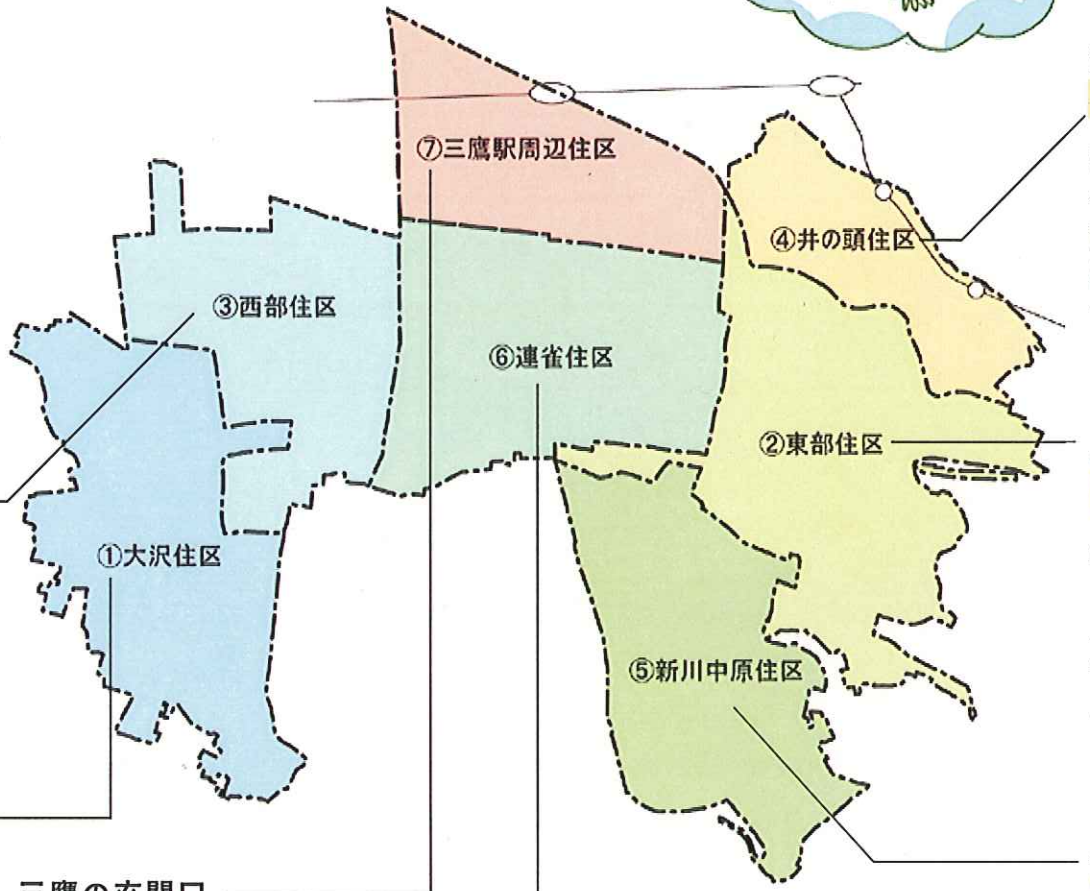
それぞれに特徴ある 身近なコミュニティ

気付かなかったけど
住区ごとに
特徴があるんだね！

7つのコミュニティ住区

町会・自治会、消防団など、コミュニティの単位はいろいろあります。

ここでは、市内を7つに分けた「コミュニティ住区」ごとに、その特徴をお伝えします。



緑と水を感じる住宅地「井の頭住区」

井の頭公園、神田川、玉川上水など、緑と水に恵まれ、閑静な住宅地が広がる住区です。駅前には商店街がにぎわいをつくっています。

武蔵野の面影残る「西部住区」

住宅地の中に、武蔵野の面影を感じる農地や屋敷林、雑木林、社寺の風景が残る住区です。

農の風景が広がる「東部住区」

起伏のある牟礼、平地の北野に農の風景が広がっています。人見街道、連雀通りの2本の街道が通り、住宅団地もある広大な住区です。

崖線の自然を感じる「大沢住区」

野川や国分寺崖線などの豊かな自然に恵まれた住区です。大規模な緑地の周囲には、住宅地や農地が広がっています。

三鷹の玄関口「三鷹駅周辺住区」

JR三鷹駅を中心とした、三鷹の中心市街地です。玉川上水や文学者ゆかりの地もあり、文化を感じる住区です。

産業と商業が元気な「連雀住区」

工場や企業、商店街、住宅地が共存した活気ある住区です。

坂と川と緑のまち「新川中原住区」

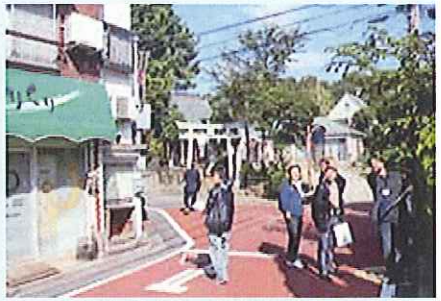
仙川と大学病院などの大きな敷地を中心とした新川地区、坂と緑豊かな住宅地が広がる中原地区からなる住区です。

① 崖線の自然を感じる「大沢住区」

国分寺崖線や野川の豊かな緑と水にめぐまれた大沢住区。湧水がたくさん出るところから「大沢」と称するようになったと言われています。大沢の市街地は、崖線上の大規模な緑地のまわりに、馬蹄形にひろがるように発展してきた歴史があります。

広大な緑地や水車小屋など、貴重な自然環境や文化遺産が残されているとともに、国立天文台や大学が立地し、文化の薫りもただよう住区です。

第七中学校脇の階段からの眺め


昔の面影を残す古八幡社界隈

水車もまわるのどかな野川

大沢の里周辺の屋敷林が豊かな道

② 農の風景が広がる「東部住区」

牟礼と北野の全域、新川の一部からなる東部住区。市の最高標高地点である牟礼の里の周辺は、玉川上水が流れ、見晴らしのよい起伏のある農地が広がっています。北野の広大な大地には農地や屋敷林、雑木林がたくさん残っていて、武蔵野の面影が感じられます。

牟礼団地、三鷹台団地などの大規模な住宅団地の建替えや東京外かく環状道路中央ジャンクション（仮称）の整備計画など、風景の大きな変化が予想されています。

玉川上水沿いの雑木林

富士山も見える牟礼の里

牟礼団地の弘済園通りの桜並木

三鷹の大動脈 東八道路

③ 武蔵野の面影残る「西部住区」

住宅地の中に武蔵野の面影を感じる農地や屋敷林、雑木林、社寺などの風景がみられる西部住区。連雀通りや人見街道の沿道には、ケヤキ並木や土蔵などの歴史を感じさせる風景が垣間みられます。井口小学校のシンボルツリーであるサワラの木は、貧しかった昔、この地域で風呂桶をつくるために育てられていました。直売所など農を身近に感じられる環境がある一方、マンション化などによる農地の減少や武蔵境通りの整備など、少しずつ風景の変化が進んでいる住区です。

第二小学校のシンボル 桜の大樹

地域の人が管理に関わる東野児童公園

生け垣や屋敷林が豊かな住宅地

歴史を伝える大鷲神社と連雀通り

④ 緑と水を感じる住宅地「井の頭住区」

井の頭公園と神田川、玉川上水に囲まれ、水景鮮やかな井の頭住区。江戸時代、徳川家光が鷹狩りにこの地に立ち寄り、湧水がほとばしるように出ているのを見て、「井の頭」と命名したと伝えられています。京王電鉄井の頭線が神田川に沿って走り、吉祥寺駅にも近く、都心への通勤などの利便性が高い閑静な住宅地で、多くの文化財も残されています。

三鷹台駅と井の頭公園駅の駅前や井の頭公園通りには、商店街がにぎわいを生み出しています。

湧水のある井の頭公園

「赤道（あかみち）」と呼ばれる水路跡の道

あじさいも鮮やかな井の頭線

三鷹台駅前の商店街のにぎわい

⑤ 坂と川と緑のまち「新川中原住区」

新川のほとんどの地区と中原の全域からなる新川中原住区。

新川地区は、仙川を中心に緩やかな起伏があり、周辺には農の風景が残っています。市民参加により整備された丸池の里は、市民に親しまれる場所となっています。また、杏林大学や新川団地など大規模な土地利用がみられるのも特徴です。

中原地区は、国分寺崖線もある起伏に富んだ地形に、住宅地が広がっています。斜面緑地が残る崖線の下は、暗渠となった中仙川が流れています。

子どもたちでにぎわう丸池の里

空がひらけた農業公園

川の線形を感じる中仙川遊歩道

広々とひろがる農地

⑥ 産業と商業が元気な「連雀住区」

市の中心部に位置し、市役所をはじめ公共施設が集中し、交通の便もよい連雀住区。工場、企業などの多くの産業が立地しており、住宅と共存しています。

連雀通り沿いなどには、古くからの商店街も形成されており、市の中心部として、産業や商業、住宅などのさまざま活気ある営みが混在しています。

また、芸術文化の拠点として、芸術文化センターも位置しています。

農地の沿道に設けられた憩いの空間

にぎやかな連雀通り沿いの商店街

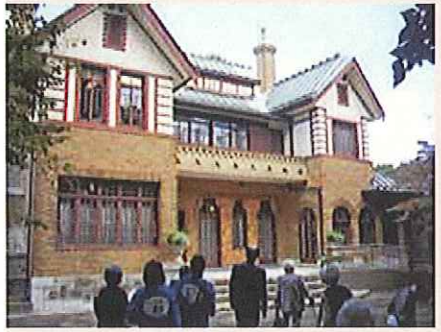
緑が豊かな八幡大神社

芸術文化センター界隈

⑦ 三鷹の玄関口「三鷹駅周辺住区」

市の表玄関であるJR三鷹駅があり、市内で最も人口密度が高い三鷹駅周辺住区。駅前地域は、市の商業の中心ですが、地域の大部分は住宅地であり、商業と住居が共存しています。三鷹駅南口周辺の17ha の区域は、再開発を積極的に進めていく場所として定められています。

駅前からジブリ美術館に向かう風の散歩道には、文学者ゆかりの場所も多く残されています。



文学薫る山本有三記念館

夜景も美しい中央通り

豊かな生け垣が続く住宅地

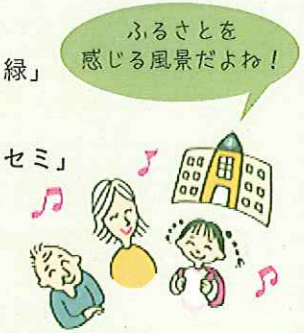
四季を感じる風の散歩道

☼ 校歌に唄われる地域の象徴となる風景

学園歌や小中学校の校歌には、豊かな自然環境が多く唄われるとともに、地域の特徴・象徴となる生活風景が唄われています。

市全体……「大地」「大空」「雲」「みどり」「花」「鳥」「武蔵野」

大沢住区……「水鳥」「深き沢」「野の川」
東部住区……「くろ土かおる」「けやきの緑」
西部住区……「さわらの木」「狩場の空」
井の頭住区……「玉川のきらめく水」「カワセミ」
新川中原住区……「仙川」「紫草」
連雀住区……「桜並木道」「けやきの幹」
三鷹駅周辺住区…「玉の泉」「小みちの花」



☼ 街角のこんな風景も地域の歴史を伝えています

ランドマークとなっている屋敷林や大樹、雑木林

…農業など地域社会の営みによって時間をかけて育まれた緑は、地域を特徴づけるランドマークとなっています。

地域で伝承されている祭り

…地域の祭礼や祭りは、地域社会のあり方やしきたり・思想など、地域の歴史を総合的に伝えています。

古民家など歴史ある建物

…大沢に見られる茅葺き屋根の農家、人見街道や連雀通り沿いに見られる農家の土蔵や社寺などは、当時の住まいや生業（なりわい）を今に伝えています。

水の流れの面影を残す道

…暗渠となった川や水路は、湾曲した道の線形や谷地を通る地形的な特徴に、面影を見ることができます。